

私がなぜ現在の科目を選んだか

「形成外科」

信州大学医学部形成再建外科学教室

重吉 佑亮

なぜ形成外科を選んだのか？答えは，“形成外科は面白そうだった”，からです。

医学部4年生の講義でみた，生まれつきの裂けた唇が手術できれいな唇になっている写真。クマに襲われてぐちゃぐちゃになった顔が手術で元通りになっている写真。どの講義もあまり興味が湧かず，身が入らない自分でしたが，はっと目が覚める感じがしました。その美しい数々の症例写真は強烈な印象を残し，1年間の講義の中でまともに覚えているのはその写真のみ，というくらいです。それまで形成外科という診療科すらまともに認識していなかったにもかかわらず，欠損した組織を創り出す，損傷した組織を元通りにする，そんなクリエイティブなことができる形成外科にいつのまにか心を惹かれていました。そして，卒後に初期臨床研修を経て，迷うことなく信州大学形成外科に入

局しました。

形成外科では広汎な疾患領域を扱います。きず（外傷，治らない傷，傷跡）の治療から腫瘍，先天性形態異常，再建，美容など多岐にわたります。疾患の種類の多さに飽きることはありません。また，一つの疾患に対する治療法の選択においては自由度が高く，術者次第で治療法がガラッと変わるといっても少なくありません。時には自分で独創的とも思える治療戦略を組み立てることもできます。しかし，それゆえ同じ症例であっても術者の技量，選択によって，結果が全く異なるものとなることがあります。形成外科医として働く内に，そこに大きなプレッシャーを感じるようになったのは確かです。しかし裏を返せば，確かな知識と技術があれば，結果がついてくる，ということだと信じています。しかも，単一の領域だけでなく，複数の領域を股にかけてそれができる。その幅広さに興味は尽きず，やればやるほど結果がついてくる。これほど面白ことはないと思います。

やはり，“形成外科は面白い”。

（信大平28年卒）

私がなぜ現在の科目を選んだか

「放射線科」

信州大学医学部画像医学教室

長田 景也

私が放射線科を選んだのは，日々新しい知識や発見が得られ，その先の専門性が患者や病院，医療全体の役に立つと思ったからです。

医学部入学当初，放射線科など知りもせず，内科になるだろうと思っていました。3年生の講義で初めて放射線科を知りました。他の科目では臓器や疾患を軸に病態や症状，治療を学びますが，放射線科はCT，MRIの仕組み，放射線治療の設計など，医学よりも工学に近い内容を扱っていました。当時の私にとって放射線科は変わった分野で放射線科医になるとは考えませんでした。

しかし，臨床実習で放射線科への興味は徐々に深まりました。画像の中に新しい知識や発見があったからだと思います。初めてCTで得た知識は，“横行結腸は横に走る”というものでした。ある日，腸を肛門から追うという課題が出されました。肛門から直腸，S

状結腸，下行結腸，横行結腸へとCT画像を上へ上へと動かすと，横行結腸が画面から消えてしまいました。なぜそうなるのか。横行結腸が横に走っているからです。CT画像では水平方向に走るものは上下にうまく動かさないと見えません。この発見は，CTが三次元の情報でできていることを理解するきっかけとなり，後に血管の走行を見る際にも役立ちました。一つの知識や発見が他の知識に繋がることを経験し，私は放射線科の楽しさを知りました。

放射線科を選んだ決め手は役に立つという実感です。研修医時代，夜間救急翌日に出る読影レポートに一喜一憂しました。治療方針が読影レポートによって左右されることもありました。また，読影だけではなく，放射線治療やIVRを通じて全身，さらには病院全体の医療に関わることができます。これは放射線科が独自の専門性を持ち全身を診ることができるからだと思います。

今，私は放射線科医1年目として日々新しい知識を身につけている最中です。これから専門性を高め，より多くの患者や医療現場に貢献できる放射線科医を目指していきたいと思います。

（信大令4年卒）